

★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「世界で最もダイナミックな都市は？」

★★

米国のシカゴに本拠を置く大手総合不動産会社のジョーンズ・ラング・ラサール(JLL)は、世界で最もダイナミックな都市ランキング(The City Momentum Index)を発表しています。世界の約 130 都市を、向こう 3 年間の GDP、個人消費、航空機利用客数、商業用不動産市場などの見通しに、教育、イノベーション、環境などの長期の持続的な観点などを加えた 30 以上の要素で、その活力を分析するものです。以下が 2015 年と 2020 年のトップ 5 です。

JLL 世界で最もダイナミックな都市ランキング

2015 年	2020 年
1. (英国) ロンドン	1. (インド) ハイデラバード
2. (米国) シリコンバレー	2. (インド) バンガロール
3. (中国) 北京	3. (ケニヤ) ナイロビ
4. (中国) 深セン	4. (ベトナム) ホーチミン・シティ
5. (中国) 上海	5. (インド) チェンナイ

ご覧のように、この 5 年間に上位が劇的に変化しています。私は活かす通信の 9 月号で、世界のイノベーションの中心がアメリカのシリコンバレーから、インドのデカン高原にシフトしているとお話ししました。このランキングの変化はまさにその流れを捉えています。デカン高原中央部のハイデラバードにはアマゾンが巨大なオフィスを構えています。その南のバンガロール(現ベンガロール)にはテスラが、EV の現地生産を視野に入れ現地法人を設立しています。

更に 2020 年のランキングを 20 位まで見ると、米国のシリコンバレーは 9 位、赤いシリコンバレーと呼ばれる中国の深センは 10 位、上海は 17 位まで順位を下げています。そして北京は見当たりません。2015 年の 1 位のロンドンは、ブレグジットのため 20 位以内からも離脱しました。一方、インドの都市は 2015 年にはバンガロールのみ(12 位)でしたが、5 年後には 7 都市が 20 位以内選ばれています。はい、この調査では欧米からだけではなく、「中国の時代からインドの時代」へのシフトもはっきりと読み取れますね。

残念ながら、日本の都市は両年の 20 位以内には一つもありません。日本経済の未来に余り期待が持てないのでしょうかね。昨年亡くなられた立花隆氏は日本

の未来に大変悲観的でした。その主な理由は人口減と科学技術者の減少です。インドはその真逆にある国です。上記のランキングにはその勢いが表れています。